

統合国際深海掘削計画 (IODP) 会議報告書

提出年月日：平成20年6月30日

(ふりがな) こうの まさる

氏名：河野 長

所属(職名): 東京工業大学グローバルエッジ研究院教授

会議名	第6回IODP科学諮問組織執行委員会 (SASEC)
会議期間	平成20年6月23日 24日
用務地(国・都市)	中国北京市
<p><u>目的</u> SASECはScience Advisory Structure (SAS)の最高組織として、科学者コミュニティを代表して今後のIODPの運営をどうするかを検討する。通常は6月の会議でIODP Annual Program Planを審議し承認することになっているが、今回はAPPが完全でないため承認はせず、2013年の計画更新に向けた今後の活動をどう進めるかを中心に議論した。</p>	
<p><u>会議内容及び報告事項</u> 今回の会議は中国の招待により北京市の釣魚台ホテルにおいて開催された。会議の主な内容は次のとおりである。</p> <p>(1) Annual Program Plan、予算案、及び産業界との連携について 今回事前に配布されたAPPは、Lead Agenciesのガイダンスに合致したものではないという意味で不完全であった。今後7月末にWashington, D.C.で予算に関する会議が予定されており、そこで本当の予算がどうなるかが詳しく検討される見通しである。このため、今回の会議では予算についての詳しい議論には入らず、7月の会議に予算に関する小委員会の委員(おそらくRaymo 小委員長)に出席してもらい、その報告を受けてからメールによって承認についての議論をすることとした。 Talwani代表はHoustonで検討した石油会社等を対象としたコンソーシアムの計画について説明、これがもしうまくいけばIODP外からかなりの資金を得ることが可能となるが、現時点では成否はまだ分からない。USIOはTalwani案のほか直接企業や政府に貸し出すやり方も含めて検討しているようであるが、これも実現性は定かでない。Texas A&M大学ではIODP関連のスタッフの大幅な縮小を検討しているようである。</p> <p>(2) Workshops, Thematic Reviews, IODP-ICDP Relation について これらに関しては先の1月の会議から大きな進展はなかった。今年度はHigh to ultra-high resolution sedimentary records ワークショップとOceanic crustal structure and formationのレビューが予定されている。SASECはSPCからの勧告を受け入れ、次回のレビューの対象としてはDeep biosphere and the seafloor oceanを取り上げることにした。</p> <p>(3) 今後の掘削提案の受け付けについて この会議の前にTalwani代表がSASEC委員にメールを送り、すでに100を超える提案がSASの中にあり、2013年までに実現できるのは16-20程度にすぎない状況で、今後も提案受け付けを続けるべきか、むしろ受付をやめSASを大幅に縮小すべきではないか、という問題提起をした。この件および次の掘削計画の更新に向けての取り組みについては、Talwani代表とSASECの間になかなか見解の違いがあり、きちんとした議論をしてSASECとIODP-MIの間で意思統一を図っておく必要性が感じられた。このため、河野はSASEC議長として会議の前にMEXT, NSF, ECORDへ質問状を送り、SASECとFunding Agenciesの間にはこれらの件についての考え方にほとんど違いがないことを確認しておいた。</p>	

以上のような背景説明の後今後の取り扱いをどうするかについて議論した。その結果、今後もこれまでと同様に年2回ずつ掘削提案を受け付け、また SAS については小規模な見直しにとどめることを決定した。SAS における掘削提案の扱いについては、これまでに SPC が OTF に送った掘削提案を再評価する取り組みを始めたが、それに加えて提案育成 (nurturing) のしくみをもっと現実的に絞るべきであるという申し入れを SASEC から SPC と SSEP に対して行うことにした。これらの決定は、今後の計画更新に向けて科学者コミュニティの熱心な参加が必要不可欠であり、また今後非常に優れたアイデアに基づく提案があれば、2013年までの期間内にも実現できるような方策を講じるべきである、という考えに基づいている。

(4) 2013年以降の掘削計画更新に向けて

前回の会議において、2009年9月に海洋掘削関係者を一堂に集める計画更新に向けての大規模なシンポジウムを開催することを決定した。その後、開催場所としてオレゴン、スクリプス、ハワイ、プレーメンの4か所から提案があり、メール投票によってこれらの中からプレーメンを選んだ。今回は Steering Committee について Christina Ravelo, Wolfgang Bach 共同議長以下のメンバーを承認し、また Wefer、巽の両名を SASEC からの連絡役として委員に追加した。

シンポジウムの時期については9月22日 24日を候補とする(他の集会等と重ならないか今後確認)。また、本格的に発表論文を集めるより前に、2ページ程度の簡単な Letter of intent (site, objective, expected scientific achievement, etc.)をできるだけ多くの人たち(特に若い研究者)から提出してもらい、Steering Committee においてその中から発表者を選ぶ、といった方式を考慮することにした。

シンポジウムを始めとし2013年の更新に至るまでの荒削りなスケジュールについて検討し、大体の枠組みについては合意が得られた。大規模集会の次にくる科学計画の策定については、集会の報告を待って具体的に考えることとした。また、今後Funding Agencies側で作られる更新のためのステップとも十分連携を取って進める必要性が強調された。さらに、更新後の予算が現在と同程度で年間航海をサポートできない可能性もあることを考え、これまでと違って産業界とも連携する掘削の可能性も計画の策定にあたって考慮すべきであると指摘された。

次回の会議はリスボン(ポルトガル)において平成21年1月に開催の予定。

事務局又はJ-DESCへのご要望・コメント等

この会議の決定は今後のIODPの進め方を規定する。その意味で日本のコミュニティにとっても重要性が高いと思われる。J-DESC等で適当な機会があるなら報告する用意がある。